

(4) 行事の準備作業

神事に付属する行事の準備作業の実績を以下に示した。

ア. 神前御供え物

御供え物は、前夜祭（大祭と送り祭り分を含む）、金の御幣宅（集会所）祭壇、新嘗祭の3つの場面で用意した。前夜祭と新嘗祭の朝は、御供え物を祓い殿に納入した後、宮司（宮司夫人）の指示で三宝に盛付けを行った。金の御幣宅（集会所）では、宮司の指示で御供えをした。御供え物の内容を資料-9にまとめた。

①前夜祭の朝（9時過ぎ）

- ・担当が祓い殿横の駐車場から御供え物を搬入した。
- ・宮司夫人の指示のもと御供え物を三宝に盛付けを手伝った。
- ・神殿、白鳥社、若宮社の祭壇への御供えと御供え物（米と魚）の入れ替えは、宮司が行った。

御供え物は、魚を除き祭りの3日間共通

祭礼原の神輿置き場には、当日、行列到着前にお供えした。

②金の御幣（集会所）

- ・前夜祭の10時頃、祭壇台（会議机）を覆う白布、三宝（祓い殿より3台）、懐紙、お盆（2つ）を用意した。
- ・担当が御供え物を並べ、15時前に到着した宮司が整えた。

③新嘗祭

御供え物の内容が異なる以外は大祭時とほぼ同じ。

三宝の向きに注意

イ. 胴卸し

10月5日（土）13時～14時（この日付は伝統として固定）

祓い殿で宮司と本当屋四役が出席し、神事（玉串奉典）を行った。

- ・清酒（2合瓶）1本、いりこ1袋をお供えした。
- ・神事後、獅子頭とべ胴を受け取り、2つとも練習場所である川地CCに持ち込んだ。

ウ. 衣装渡し

10月14日（月）の楽打ち練習後

- ・本当屋（当屋総代）から衣装（法被とハチマキ、太鼓背負い用晒帯）を練習参加者に渡した。
- ・六神儀、獅子舞、神輿などは形式的なことはしなかった。

計画は13日だが練習日程に合わせた。

エ. 巫女の舞、楽打ち、保存会（六神儀、獅子舞）の練習

「胴卸し」を境に練習が始まった。練習初日には当屋総代と行事総頭領が挨拶するようにした。練習場所と練習日程は、はそれぞれが師匠を中心に設定した。本当屋は、特に楽打ちの練習準備と片付けを担った。練習日程を資料-10に示した。

①巫女の舞

- ・当屋域外を含めて4名の参加を得た。

当屋総代が主に対応

②楽打ち

- ・当屋域外を含めて 10 名の参加を得た。
- ・太鼓は、当屋保有が 3 張、個人所有 3 張のほか 9 張を青河八幡神社芸能保存会から借用した。
- ・練習は、一場木工所を借用し 18 時半から約 1 時間
- ・参加した子供には飲み物（ジュース類）を用意し、練習終了後に菓子類を配った。

当屋総代と行事頭領が主に担当し、飲み物と菓子を準備した。

当屋保有の太鼓は重いので、青河借用と個人所有の太鼓を使用した。

本当屋は毎回練習を見守った。

③六神儀

- ・練習日程などは師匠ほかが行った。
- ・練習は、川地 C C 2 階で 19 時から約 1 時間余
- ・保存会事務局が毎回飲食物を用意した。

賄い

④獅子舞

- ・練習は、20 時頃から 1～2 時間で、もっぱら川地 C C 駐車場で
行い、適宜休憩をとった。

本当屋は毎回練習をも守った。

⑤練習の見学・応援

- ・楽打ちの練習には毎回多くの見学（応援）者があった。
- ・他の練習には本当屋の賄いを廃止したので数人に止まった。

保存会任せせず、練習見学を通じて当屋が盛上げる必要を感じる。

オ. 行事役割表の作成（人員募集）

今年は保存会ができたので六神儀、獅子舞、神輿担ぎの要員募集への本当屋の関与の必要はなかった。本当屋は、役員のほか神事関連の奉仕者、巫女の舞、楽打ちとお旅奉仕者の募集に当たった。

- ①本当屋役員は、当屋総代を除き R 6 年 2 月常会で決定した。

当屋総代は R3 年度から

- ②役割表の作成（奉仕者募集）は、当屋総代が役割表を作成しつつ
担った。

- ③巫女の舞や楽打ち参加者の募集も当屋総代が担った。

- ④本当屋が担う役割を 8 月 18 日の本当屋寄りで決めた。

- ⑤残りの役割を、当屋寄り後の常会長会合で常会に割り振り、後日
最終的に決定した。

（５）前夜祭と大祭

2 日間にわたって神事を中心に各種の行事を時間単位で行った。神事と幾つかの伝統的な行事があるので、従来どおりの進行となるよう過去の資料を参考に、場所と時刻ごとの行事運営表（資料-11、12）を作成した。また、行事参加者の便宜のため時刻別の出番などを示す役割（参加者）別日程表（資料-13、14）も作成した。

①行事運営表による進行

- ・行事運営表は、10 月 14 日の本当屋寄りで最終案ができた。
- ・前夜祭と大祭をこの行事運営表で進行した。

16 日に配布

・実際の祭りの流れは下表のとおり。

区分	時刻	場所	行事
前夜祭	(13時)	(集会所)	楽打ち等は降雨で中止
	15時	集会所	神事の開始
	16時		直会
	17:15	祓い殿	神事の開始
	17:40		巫女の舞
	18:15	舞殿	宮司祝詞、総代長挨拶
	18:45		六神儀開演
	19:40		六神儀終了
	22時	祓い殿	直会終了
大祭	11:45	集会所前	楽打ち
	11:56		獅子舞
	12:15		神社へ出発
	12:38	祓い殿	神社に到着
	12:40		神事の開始
	12:48		巫女の舞
	13:38	広場	楽打ち、獅子舞
	13:48		神輿登場（1台）
	13:53		お旅出発
	14:20	祭礼原	祭礼原に到着
	14:22		神事、楽打ち、獅子舞
	15時		祭礼原出発
	15:15		神社到着
	15:27		神前湯沸し
	15:30	広場	楽打ち、獅子舞
	15:45		記念写真の撮影
	15:50		閉会、次当屋へ引継ぎ

②幾つかの混乱

進行内容を詰め切れない所や担当者間の連絡不足、細部の思いもしないこと等により少し混乱した。

- 祓い殿前での神輿の動き
- 祓い殿前から左に一周するタイミングと参加者の範囲
- 祭礼原や写真撮影での並び方
- 神事進行と楽打ちのタイミングなど

記録が無いこと、経験者が少ないこと、神事進行者との連携不足

③雨天による行事の一部中止

朝からの雨で昼頃に予定していた楽打ちと獅子舞を中止し、金の御幣宅（集会所）での神事から前夜祭行事を開始した。

朝8時に中止を決め。当屋総代が関係者に連絡した。

④舞殿前広場への仮設屋根掛け

六神儀演技中に降雨の可能性があった。このため工務店を営営する行事頭領が舞殿から広場に3本のロープを張り、これに白色シートを取り付けて屋根にした。

立派なのができしたが雨は降らなかった。

⑤人出

- ・六神儀の演技中は、最大で 100 人程度の人出があった。述べ人数は分からない。夜店が 2 店あった。
- ・広島県教育委員会文化財課と島根県立古代出雲歴史博物館から六神儀を中心に祭りの取材があった。
- ・祭礼原では祭礼関係者が約 70 人、見物する者が 60 人くらい。

夜店から「花」あり。

本当屋常会長が対応。
後日、両者から取材動画の提供があり、ブログに掲載した。

⑥前夜祭の終了は 20 時頃

- ・神楽団を招聘しなかったのも、コロナ禍以前に比べると約 3 時間早く終了した。
- ・本当屋役員は、祓い殿の直会に参加し 22 時頃に帰宅した。

神楽団の接待や片付けはなし。

⑦記念写真の撮影

- ・大祭終了後、祓い殿前の階段で記念写真の撮影をした。
- ・1 家族 1 枚を無料配布としたが、希望者の記名がうまく行かず、写っている者を特定し配布した。

1 枚 600 円
写っている個人の特定に手間がかかった。

⑧写真撮影

- ・神社書記が体系的に前夜祭（143 枚）、大祭（230 枚）、送り祭（8 枚）の風景を撮影した。
- ・神社書記が作った要約版（時刻付き）をブログに上げたほか、全写真が誰でも閲覧できるよう圧縮ファイルもブログに上げた。

写真から実態把握できる。
DVD での提供も可能

（6）送り祭り

ア．幟納め・注連縄と帳場の撤去

10 月 21 日（月）13 時半～14 時半。中の村当屋の共同作業として実施した。幟と注連縄の撤収は、設置した常会が担当した。午後からの小雨で幟が濡れた。

①幟納め

- ・広場の 2 本を残してすべて撤収した。
- ・幟は乾かすため舞台上にロープを張って干した。干せない幟は梁などに仮置きした。

約 1 週間かけて干し、
木箱に防虫剤を入れて
神輿蔵に保管した。

②お旅ルートの小注連縄と竹の回収

回収して「とんど」に使うことにした。

③舞台の幕やブルーシートなどの撤去

- ・幕は梁から外してたたみ、プラ製衣装ケースに入れ防虫剤を入れて神輿蔵に保管した。
- ・白色ブルーシート（本当屋所有）は集会所に持ち帰った。
- ・連合自治会から借用の紅白幕（2 枚）はクリーニングに出した。
- ・舞台上の畳と舞台裏に置いた畳は、元のように「一段高い舞台」に積み上げた。

後日、連合自治会に返却した。

④帳場は、解体して神輿倉の床下に収納した。

⑤境内の清掃

・銀杏とイチョウ落ち葉をブロアとホウキで清掃した。

⑥保存会との懇親会

・保存会の懇親会に本当屋から3名参加した。

保存会と本当屋の連携
は今後とも大切

イ. 送り祭

10月21日（月）14時半から約30分、祓い殿。参加者は宮司と本当屋全員

①玉串奉典

宮司による神事後、本当屋四役が玉串奉典を行った。

②参加者全員での記念写真

③例大祭の御供え物が下げられたので本当屋で分けて持ち帰った。

鮮魚は冷蔵庫保管とか

（7）例大祭後の行事や作業

ア. 衣装や道具類の片付け

使われた衣装類は、集会所に集めた上でクリーニングに出し（10月27日）、道具類も集会所に集めた上で整理し、次の当屋に引き渡した。

①衣装類

楽打ちの法被と鉢巻き、神輿担ぎの法被、巫女の舞の衣装、お
旅の法被、六神儀の衣装、悪魔祓い衣装

衣装箱3つ
クリーニングに3週間

②11月21日、志和地当屋に引き渡し

六神儀の面や道具類と衣装、悪魔祓い衣装

③中所常会（次期本当屋）への引き渡しは未定
太鼓

衣装等を確認し「引継
書」を作成

イ. 礼状の作成と送付

例大祭を実施する際の支援に対する礼状と御花への礼状等を作成して配布した。

①支援に対する礼状（記名）

・宮司、総代長、行事相談役へ10月29日投函
・氏子あて（常会回覧用）は11月8日（市広報と同時）配布

②御花御礼ビラ（A4サイズ）を貼りだした。

氏子の指摘で知った。

②御花提供者への礼状（記名）を11月5日投函

住所把握に苦労した。

ウ. 御花の開封と整理

10月24日に開封して集計した後、25日に任意団体名でJAに口座開設し入金した。以後、この口座に各戸負担金や欠夫料を集め、この口座から立替払い等の清算を行った。

①御花の集計

・総花は、当屋総代、行事頭領（3名）、常会長で開封し、金額
と氏名（106名）を記録した。

どちらか片方もあるが
両方も多い。

- ・保存会等あての御花は、開封せず氏名（64 名）を記録し、25 日に保存会事務局に渡した。

②専用口座の開設

- ・「大坪当屋御花運営会」という団体（規約）を作って口座開設した。

（8）新嘗祭（小祭り）

11 月 23 日（土）13～15 時 参加者は、宮司、総代会、本当屋全員
収穫に感謝して新穀を神にささげる儀式で、毎年この日に宮中と全国の神社で開催されてい
る。行事期間中にもかなりの氏子が参拝に訪れた。

①事前準備

- ・「志賀神社新嘗祭（小祭り）のご案内」を氏子あて各戸配布した。
- ・新嘗祭のチラシを 11 月 20 日に新聞折り込み配布した。

②神前お供え物

- ・9 時半ころ御供え物を祓い殿に納入した。

③境内の清掃と幟立て

- ・13 時に集合し、ブロアとホウキで境内の銀杏とイチョウの葉を片付けた後、祓い殿前広場に幟を 2 本立てた。

④神事

- ・宮司、総代長、各総代、遺族会に続いて金の御幣、行事総頭領、常会長が玉串奉典をした。
- ・幟を収納して解散した。

⑤奉納行事

舞殿前で賞品を用意してビンゴゲームをした。

賞品は行事頭領が準備
子供中心に 20 名余の参
加があった。

⑥直会

神事後の直会に本当屋から 4 人参加したが、総代会を開くとい
うので当屋総代以外は早々に退出した。

（9）とんど祭り

令和 7 年 1 月 12 日（日）14 時集合 （案内を 12 月 6 日付けで配布）
中の村当屋の共同作業として実施（22 名参加）

①御供え物 御神酒（2 合瓶）

総代長が 1 升瓶

②とんどヤグラの設置 14 時開始

参考資料-26

- ・孟宗竹、乾燥した丸太や雑木束、ワラ縄、点火用トーチ（4 本）
などは、事前に総代会が準備
- ・芯になる竹柱（先端に紙垂）を立て、周辺に孟宗竹や雑木束な
どを巻くように置いていき、それをワラ縄で縛る操作を続け、
約 20 分ほどで完成した。

点火予定時刻まで時間
があったのでいったん
解散した。

③神事、点火 15時～17時

- ・宮司は家族がインフルのため欠席し神事なし。
- ・本当屋の写真担当が開始から終了までを写真撮影し、大坪常会ブログに掲載・保管してある。
- ・16時半ころから餅を焼く人が減ってきたので消火準備
- ・消火後、総代長の終わりの挨拶、解散した。

写真を見れば、作り方や大きさなどが良く分かる。

とんどを見守る人が手持無沙汰。お神酒を増やせば盛り上がったかも。